

1984年春

昭和60年3月20日

「高柳記念電子科学技術振興財団」の 第1回助成金の授与について

財団法人 高柳記念電子科学技術振興財団

財団法人高柳記念電子科学技術振興財団（理事長 高柳健次郎）は、その事業のひとつである「電子科学技術およびその応用に関する研究への助成」として、このほど第1回助成対象（2件）を決定し、下記により助成金を贈呈することになりました。

記

期 日：昭和60年3月23日（土）午後5時より

場 所：国際科学技術博覧会 日本政府出展歴史館内

※この件に関する問い合わせ先

日本ビクター㈱ 広報室広報課

電話 03(241)7811(代)

〈 式 次 第 〉

1. 挨拶 （理事長 高柳健次郎） 17:00～17:20

1. 授与式

（ 於 ・ 歴 史 館 2 階 貴 賓 室 ）

1. パーティー

17:30～18:30

（ 於 ・ テ ー マ 館 レ セ プ シ ョ ン ル ー ム ）

第1回の助成対象となった研究は次の2件、助成金額は各200万円です。

1. 「高分子電子物性および光感应性有機材料の研究」

研究者：斉藤省吾氏（九州大学総合理工学研究科教授）

2. 「量子マイクロヘテロ構造における電子の波動関数の制御とそのデバイス応用」

研究者：榊 裕之氏（東京大学生産技術研究所助教授）

なお、この授与式は3月23日（土）午後5時より、筑波科学万博・歴史館にて、当財団の高柳理事長他の出席のもとに行われます。

高柳財団は、今日のテレビ映像技術の基本原理を発明した高柳健次郎が、自身の若い頃の経験、すなわち、研究テーマをつきつめていけばいくほど研究のための材料や装置に費用がかさみ、そのための資金確保に大変な苦勞をしたという体験から、いま独創性と可能性を秘めた研究に取り組んでいる人たちに、援助しようとの趣旨で設立されました。

財団法人の設立は昭和59年10月31日で、高柳健次郎の私財出捐（当初2億円）を基金として発足いたしました。

高柳財団の主な事業は、①電子科学技術及びその応用に関する研究への助成、②同上の研究に業績のあった人の表彰、③テレビジョン工学の研究開発の歴史的資料の保存、展示、活用、④その他となっています。

今回助成対象となった2つの研究は、いずれもユニークな着想からアプローチされているもので当財団の「基礎技術、応用技術を問わず、独自の視点と着想を重んじた研究開発の奨励」という基本理念にかなうものとして選定されており、将来の電子工学分野に新しい道を拓くものとして期待されます。（選考委員は別項参照）。

◀助成対象の研究テーマと対象者▶（敬称略）

1. 研究課題 「高分子電子物性および光感応有機材料の研究」

研究者 齊藤省吾（九州大学総合理工学研究科教授）53才

選考理由 「この研究は、有機高分子材料を金属なみに高導電化する理論的、実験的研究で、将来エレクトロニクスをはじめ、電力その他様々な分野に数多くの応用が期待できる。また、光に感ずる有機材料の研究も含まれており、今後の成果が期待できる」

2. 研究課題 「量子マイクロヘテロ構造における電子の波動関数の制御とそのデバイス応用」

研究者 榎 裕之（東京大学生産技術研究所助教授）40才

選考理由 「この研究は、今後の情報分野において切望されている超高速情報処理、通信の高性能化という問題を解決することを目標とした量子マイクロヘテロ構造の理論的、並びに実験的研究で、例えば新提案の速度変調トランジスタの開発など、その成果は情報分野に画期的進展をもたらすことが期待され、非常に注目される」

●高柳財団の選考委員会は、以下の方々によって構成されています。（敬称略）

猪 瀬 博 （東京大学工学部 教授，理事兼務）

相 磯 秀 夫 （慶応義塾大学理工学部 教授）

木 村 悦 郎 （NHK放送技術研究所 所長）

五 嶋 一 彦 （日本電信電話公社研究開発本部 副本部長）

末 松 安 晴 （東京工業大学工学部 教授）

<ご参考>

——高柳健次郎がテレビジョン原理発明に取り組んでいた頃の苦勞——

- 今から60年以上前、大正13年に高柳健次郎が浜松高等工業学校（現、静岡大学工学部）でテレビジョンの研究を始めた当時、学校側から与えられた研究費はわずか500円でした。

これだけの“予算”でテレビの送受信装置を作るためには、木工や金属加工などすべて自らの手仕事でやらなければなりませんでした。

それでもなお研究費は不足し、夫人の持参金を出してもらい、研究に必要な真空管を購入したというエピソードもあります。

しかし、当時のその500円がなければ、日本人の手によるテレビジョンの開発はなかったかもしれず、また、夫人の持参金という“最後の手段”がなければ、世界で初めてブラウン管に「イ」の字を映すことができた（大正15年12月25日）という記念すべき日も、ずっと遅れたに違いありません。

- 高柳健次郎は「研究には資金が必要であり、たとえわずかな研究費でも、それが自分の思うように使える金であれば、いかに有効なものか、また研究に役立つものかを身をもって体験した」と語っています。

以 上

高柳健次郎略歴

- 明治32年1月20日 静岡県和田村安間新田（現在の浜松市）生
- 大正10年 東京高等工業学校附設教員養成所電気科卒
- 大正13年 浜松高等工業学校助教授
テレビジョン研究の本格的開始
- 大正15年 実験装置により初めて片仮名の「イ」をブラウン管に映し出すことに成功
- 昭和3年 人間の顔の電送に成功，電気学会に発表
- 昭和5年 天皇陛下静岡県下行幸に際し，テレビジョンの実験を天覧に供する。
- 昭和10年 アイコノスコープの試作に成功し，全電子式テレビジョンを完成する。
- 昭和12年 NHK技術研究所に移りテレビジョンの研究を担当
- 昭和14年 実験電波の発射，電波によるテレビジョン放送に成功，受像結果の一般公開
- 昭和19年 海軍技師を兼任 電波兵器及び暗視装置の研究に従事
- 昭和25年 日本ビクター株式会社取締役技師長
- 昭和34年 2ヘッド式VTRを発明
- 昭和38年 トランジスタ化されたモニター組込小型カラーVTRを開発（世界最小）
- 昭和45年 日本ビクター株式会社取締役副社長就任
- 昭和46年 カセット式VTR（3/4吋）発表
- 昭和48年 日本ビクター株式会社取締役技術最高顧問
- 現 在 同社技術最高顧問

高柳健次郎栄誉 (テレビジョン研究の功 他)

昭和 6 年	8 月 2 4 日	帝国発明協会 恩賜発明奨励賞
昭和 12 年	1 月 2 3 日	電気学会 浅野博士奨学祝金
昭和 27 年	3 月 2 2 日	日本放送協会 放送文化賞
昭和 30 年	4 月 1 5 日	紫綬褒章
昭和 36 年	5 月 1 0 日	I T U (国際通信連合) 主催 世界第 1 回 テレビジョン祭典表彰
昭和 44 年	4 月 1 5 日	勲三等 瑞宝章
昭和 49 年	1 1 月 3 日	勲二等 瑞宝章
昭和 55 年	1 1 月 4 日	文化功勞者受賞
昭和 56 年	1 1 月 3 日	文化勲章

この件についてのお問い合わせは
(報道関係窓口)

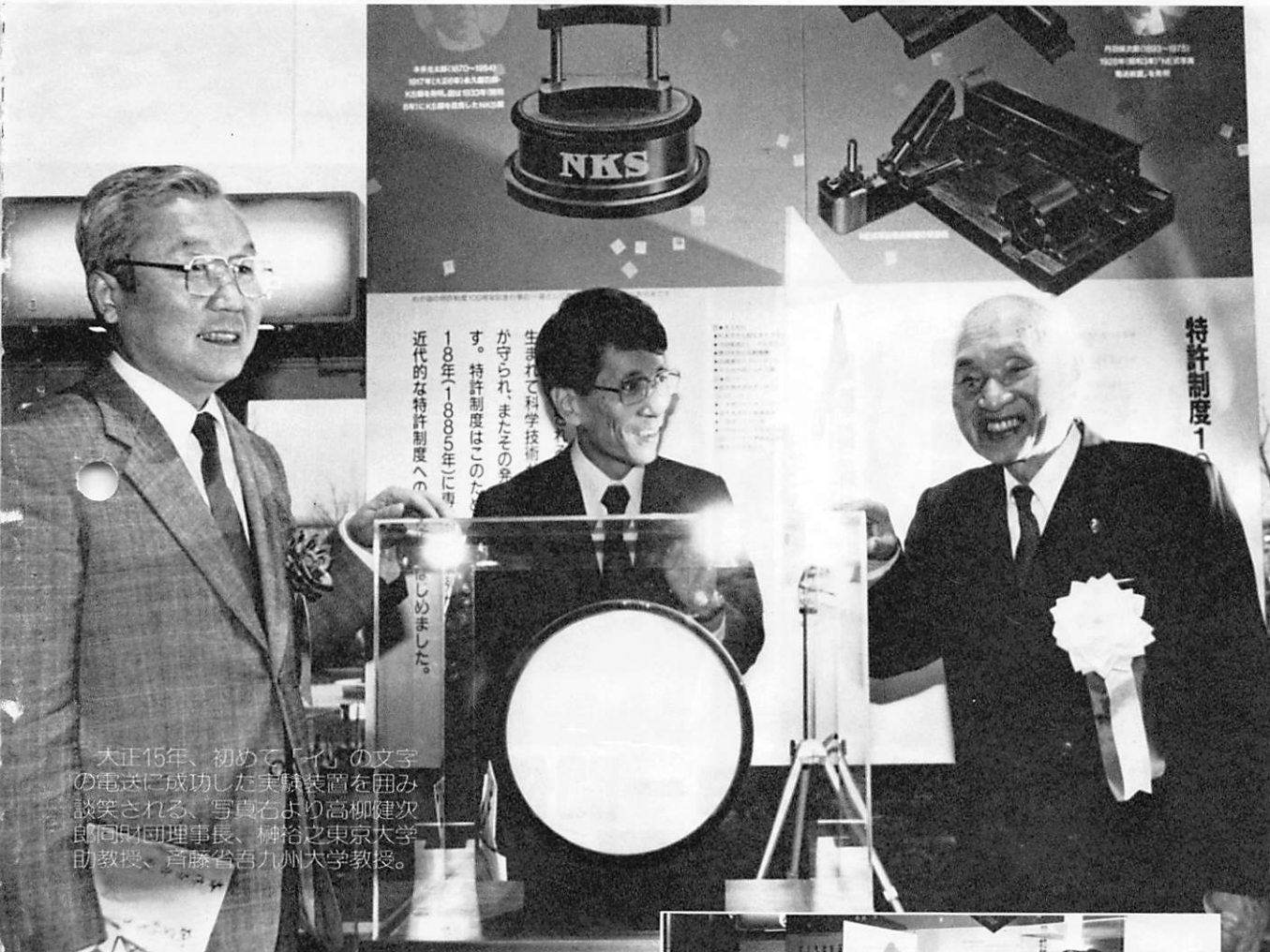
日本ビクター (株) 広報室 広報課

電話 03 (241) 7811 (代)

03 (279) 6742 (直)

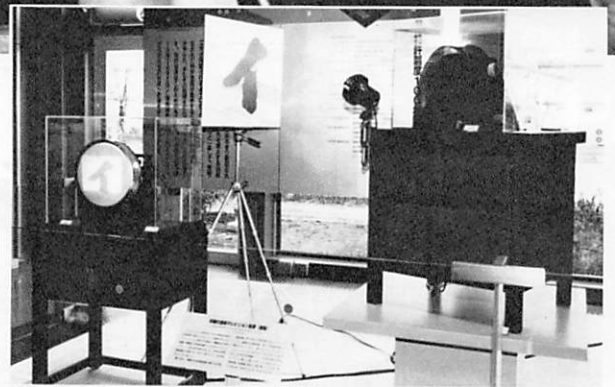
科学万博・日本政府出展・歴史館で盛大に挙行

高柳記念電子科学技術財団第1回助成金授与式



大正15年、初めて「イ」の文字の電送に成功した実験装置を用い談笑される、写真右より高柳健次郎同財団理事長、榊裕之東京大学助教授、斎藤省吾九州大学教授。

高柳記念財団の第1回助成金授与式が、開催まもない3月23日、科学万博 つくば'85の日本政府出展歴史館内を会場に盛大に挙行されました。同財団は、今日のテレビ映像技術の基本原則を発明した高柳健次郎氏が、ご自身の経験すなわち研究をつきつめればつきつめると、費用経費がかさみ、資金確保に苦労したという体験から、獨創性と可能性を秘めた研究に取り組んでいる人たちに援助しようという旨で、昭和59年10月に設立され、同氏の私財出捐(当初2億円)を基金として発足したものです。今回の助成対象となった二つの研究(下記参照)は、いずれもユニークな着想からアプローチされているもので、同財団の基本理念にかなうものとして選定されており、将来の電子工学分野に新しい道を拓くものとして期待されています。



〔複製された初期の国産テレビジョン装置〕

助成対象となった研究テーマと対象者(敬称略)

〈1〉 研究課題……高分子電子物性および光感応有機材料の研究

- 研究者……斎藤省吾(九州大学総合理工学研究科教授)、53才
- 選考理由……この研究は、有機高分子材料を金属なみに高導電化する理論的、実験的研究で、将来エレクトロニクスをはじめ、電力その他、さまざまな分野に数多くの応用が、また、光に感ずる有機材料の研究も含まれており、今後の成果が期待できる。

〈2〉 研究課題……量子マイクロヘテロ構造にお

ける電子の波動関数の制御とそのデバイス応用

- 研究者……榊裕之(東京大学生産技術研究所助教授)、40才
- 選考理由……この研究は、今後の情報分野において切望されている超高速情報処理、通信の高性能化という問題を解決することを目標とした量子マイクロヘテロ構造の理論的、並びに実験的研究で、たとえば新提案の速度変調トランジスタの開発など、その成果は情報分野に画期的進展をもたらすことが期待され、非常に注目される。